

1月の安全運転のポイント 平成20年1月号

あけましておめでとうございます。今年も交通ルールを守ったマナーのよい安全運転をお願いします。

さて、冬期は路面の凍結や積雪など運転にとって悪条件が重なるときです。凍結路や積雪路は、ハンドルやブレーキのちょっとした操作ミスや、発進時やシフトダウン時の不適切な加減速によってもスリップするおそれがあります。また、ブレーキをかけても車がなかなか停止しないため、追突事故も起こしやすくなります。しかも、路面の凍結については、あまり雪が降らない地域でも起こりますから、降雪地域ではないからといって、決して油断はできません。

そこで今回は、凍結路や積雪路などの冬道の安全走行についてまとめてみました。



凍結しやすい場所を知っておく

積雪した道路や降雪中の道路が滑りやすいことはいうまでもありませんが、それよりももっと滑りやすいのが凍結路です。凍結路は積雪路と違って見分けにくいために発見が遅れがちです。そのためスリップ事故を起こしてから路面が凍結していたことに気づくというケースもよくあります。しかし、それでは手遅れです。

したがって、冬道では路面の状態にも十分目を配り、凍結路面を早目に発見するよう努めることが大切ですが、そのためには凍結しやすい場所を知っておくことも重要なポイントとなります。

特に凍結しやすいのは、次のような場所です。

- ・橋の上
- ・トンネルの出入口
- ・交差点の手前やカーブの手前などのブレーキをよく踏むところ
- ・切り通し（山や丘陵などの間を切り開いて通した道）
- ・山間部などの日陰になっているところ

上記に掲げた場所は、周囲に雪がない場合でも凍結しているおそれがありますから、路面の状態に十分注意して、速度を落として慎重に運転する必要があります。

また、雨上がりの道路は、気温の下がる深夜から明け方にかけて、路面が凍結するおそれがありますから注意が必要です。





速度を落とし車間距離を十分とる

凍結路や積雪路の安全走行の基本は、速度を落とし車間距離を十分とるといことです。高速道路の場合でも、積雪時や降雪時には、走行速度が時速50キロなどに規制されますから、一般道路の場合にはそれよりもっと速度を落として走行する必要があります。

また、急ハンドルや急ブレーキ、急発進や急加速などの「急」のつく運転は絶対に避けて、慎重な運転操作を行う必要があります。



ブレーキには細心の注意を払う

凍結路や積雪路で強くブレーキを踏むと、タイヤがロックしてしまいスリップを招くだけです。乾燥路と同じ感覚でブレーキを行うのは非常に危険です。ブレーキはソフトに踏み、徐々に停止するようにします。また、交差点や「止まれ」の標識のある場所で安全に停止するためには、あらかじめ減速して進行し、余裕をもって停止できるようにしておく必要があります。



吹雪などで視界が悪いときは無理をしない

降雪時には視界が悪くなりますが、特に高速道路などでは吹雪のために、ほとんど前方が見えなくなることがあります。そのようなときに無理をして先に行こうとするのは非常に危険ですから、サービスエリアやパーキングエリアなどの安全な場所に一時待機して、天候が回復し視界が確保できるまで待つようにします。また、降雪時に走行するときは、フロントガラスやサイドミラーに付着した雪で視界が妨げられることがありますから、ときどき車を安全な場所に止めて雪を払うようにします。



チェーンを必ず装備しておく

冬期の走行では、夏用タイヤの場合はもちろんのこと、スタッドレスタイヤなどの冬用タイヤの場合でも、チェーンは必需品です。車の中に装備されているか、破損していないかなどを必ずチェックするとともに、いざというときにスムーズに取り付けられるように装着の仕方を練習しておくといよいでしょう。

また、「チェーン装着」の指示が出されたときや、対向車がチェーンを装着しているときなどは、早めに安全な場所に車を止めてチェーンを装着するようにします。



飲酒運転の撲滅を誓いましょう

飲酒運転は悪質・危険な行為であり、社会的犯罪です。飲酒運転を撲滅するために、年頭に当たって、ドライバーの皆さん一人ひとりが次のことを誓いましょう。

- ・飲酒運転をしない。
- ・飲酒運転の車には同乗しない。
- ・飲酒運転を行うおそれがある人に酒をすすめたり車両を提供しない。
- ・飲酒運転をしようとしている人がいたら制止する。

「ご相談・お申込先」